

平成30年度 教育センター運営委員会 (議事録)

- 1 日 時 平成30年11月5日 9時30分～11時00分  
 2 場 所 教育センター 会議室  
 3 出席者 運営委員会委員15名 外職員

発言者	内 容 等
委 員	1～3年次の教員は悩みが多いと聞くが、具体的に悩みの内容を教えて欲しい。
事務局	第1に、子供達と関係を築けていないために、「叱るべき時にきちんと叱れない。どう叱っていいのかわからない。」といった子供の指導に関する事。第2に、同学年の教員同士の協力関係が築けていないために、先輩教員から指導を受けたとしても、消化できず自分の力を発揮できないこと。第3に、保護者との関係が円滑に築けていないために、保護者の理解を得ることができないこと。を把握している。
委 員	教育業界で働き方改革についてのプログラムが作成され、それを受けて部活動のガイドライン改訂版ができているが、具体的に取り組むことが重要であると思う。また、30年度は29年度に比べて研修講座数や回数が減少しているが、31年度の数の傾向を伺いたい。
事務局	現在、31年度研修講座について審議しており、講座回数等は確定していないが、デジタルコンテンツを利用することによって、校外研修時間を削減しようと考えている。教員の負担を減らし子供と向き合う時間を確保しながら、充実した研修を進められるよう知恵を絞っている。
委 員	8名の巡回研修指導教員が全227校に分担して配置されているが、まだ全校に配置されていないと思うがいかがか。当校では、対象の採用2年目及び4年目の教員は数が多く、学校内ではなかなか指導ができないでいるが、巡回研修指導教員に授業参観や面談をしていただいている。巡回研修指導教員は今後増員する予定はあるのか。また、本年度来校されると来年度は来校されないのか。
事務局	巡回研修指導教員制度は、文部科学省に申請し、29年度から導入された制度である。29年度は5名だったが、30年度は8名へ増員となった。国による定数なので現時点でははっきりしたことは言えないが、教職員課と協議し、できるだけ多くの学校に巡回が行き届くよう検討したい。
委 員	研修指導員・研修指導教員・巡回研修指導教員それぞれの情報共有や連携、或いは教育センターと教職員第1課との情報共有や連携はとられているのか。また、実際に学校現場ではどのような指導がなされているのか。
事務局	研修指導員・研修指導教員・巡回研修指導教員同士の情報共有は非常に重要で、基本的に週1回教育センターに集合し課題等を共有している。また、研修・研究課と教職員第1課とは必要に応じて随時やりとりをしながら情報共有を行っている。研修指導員等の学校巡回について、学校現場の声としては、非常に有効に機能しているという意見もあれば、若干負担に感じているという意見もあるようなので、週1回の指導員連絡会の中で、実態に応じた指導をするよう研修指導員等に話をしている。
委 員	指導案を作成する時間を捻出するのが非常に厳しく、授業がうまくいかない経験の浅い教員が、研修指導員等から支援を受け力をつけて行って欲しい。

発言者	内 容 等
事務局	研修指導員等の現場での指導状況を確実に把握し、教職員第1課と協議したい。
委員	本庁と教育センターとの直接的な連携やお互いの情報を交換するパイプが保たれていないと、両者の牽引力により現場にしわ寄せが生じてくると思う。学校指導課と生徒指導課との連携について現状を教えて欲しい。
事務局	我々も日常的な連携を大事にしている。例えば、何か事案があると、生徒指導課担当者から研修・研究課担当者に必ず連絡がある。逆に、教育センターが何か情報を得ると本庁担当者に連絡するといった具合である。また、課長同士が直接話すことを日常的に行っている。
委員	教育センターの講座の中に教員免許状更新講座があるが、以前は教職員課から「本年度の免許更新の該当者は〇〇である。」と通知があったが、本年度からは個人の責任で受講するようになったと聞いているが本当であろうか。
事務局	教員免許状更新に関する諸手続や連絡に関しては、従来どおり教職員課第1課で行っている。昨年度までは教頭が集約して申請していたが、本年度は各自の責任で申請するように変更した。
委員	免許状更新講座の受講申込を人事異動前に仮予約していたが、異動後の本予約名簿に名前がなかったため、本年度は更新講座を受講できなかった事例がある。異動者で免許状更新対象者を年度当初或いは年度末に通知してもらえば、学校側としても把握できるのだが難しい相談だろうか。
事務局	大切なことであり義務なので、我々の願いとしては、教員1人1人が自覚を持って更新手続きを行っていただきたい。ご意見は教職員第1課に伝え、連携して、できるだけ漏れのないようにしたい。
委員	研究発表会の在り方について、具体的にどのような改善が進められているのか。
事務局	発表者が、1年間の研究成果をその場で発表することが1番大事だと思っている。次に参加する教員がしっかりと学べる内容や時間の工夫を、我々はしなければならない。今後、全体的をどのようにしていくかと模索している。
委員	<p>私は人権と道徳の研究発表会に参加したことがある。発表者は教育センターに1年を通して毎週来所し研究しているが、この研究成果がどれだけ現場で活用されているのか、疑問でありもったいない思いがある。発表報告後、質問が2～3問（質問がない場合もある）、その後助言者の話となる。研究成果に議論がないまま終了となり非常にもったいない。もっと現場で活用していくために、発表について参加者で議論し、参加者が現場に持ち帰って実践し、その後発表者と参加者が実践を持ち寄り、交流し進めて行くのではないかとと思っている。時間が無いのはわかるのだが、あまりにも発表会の時間が短すぎて議論する時間の余地がないのが残念である。せつかくの研究を現場で活用するために改善する必要がある。</p> <p>次に、研修に関して、本年度教員免許状更新講座を受講したところ、指導主事が多面的に関わっている事がわかった。学校訪問のように以前の教育センターの業務には無かった業務が増えたにもかかわらず、免許状更新業務もあり非常に大変だろうと思っている。市内には研究を積み信用と信頼の実績ある研究会が数多くあるので、研修講座の企画段階で、研究会に委託するとか、或いは一部を関わってもらえば、指導主事の負担軽減になり、教育センターが本来すべきことややりたいことができるのではないかと。</p> <p>最後に、教育センターの指導主事は、管理職を含めて指導できる立場にあると理解していいのか。</p>

発言者	内 容 等
事務局	<p>最初の意見について、研究発表会のためのグループ研修は、我々が若い時は毎週毎週だったが、現在では講師の方々に年間を通して月2回来ていただいている。また、各学校から多くの教員が研究発表会に参加されているので、研究に対して協議する時間を確保しようと検討している最中である。</p>
事務局	<p>2番目の意見の免許更新講座の件は、非常にありがたいお言葉をいただいたので、主事達に伝える。全ての単位を教育センターで取得できるのは全国的にもなかなかないことで、いろいろと不都合等あるとは思いますが精一杯運営している。</p> <p>各研究会等との連携については、これもありがたいご意見だと思う。各研究会や校長会等々で蓄積された素晴らしい研究財産については、力を借りながら、全市教員に広めたいので、それぞれに相談させていただきたい。</p>
事務局	<p>最後の質問について、教育センターに限らず、指導主事は管理職を含めて指導する。その際、指導主事には、「それぞれの立場、それぞれの業務において『指導主事は教育長の代理である。』という思いで学校に対応する。当然学校の悩みを聞かなければならないし、そのための支援もしっかりして欲しい。」と話している。また、管理職を含めてきちんと指導ができるよう、指導主事の普段の力量や人格的なことを含めて、しっかりアップするよう機を捉えて話している。</p>
委員	<p>子供と向き合う時間を確保するために、提出書類を削減するという目標が掲げられているにもかかわらず、この10年間ほとんど削減されていない。提出書類や文書が非常に多いため、教育センターも努力し、ポイントがわかりやすくつかめるような様式を早く構築していただきたい。</p>
事務局	<p>教育指導計画の様式については平成32年度小学校から、振興計画については平成31年度から、学習指導要領については平成32年度からになるので、教育指導の様式をどこまで簡素化できるか、どこまで内容を充実できるか、現在研究している最中である。次に様々な提出書類については、教育センターだけの問題ではないので、関係各課と相談・連携するとともに、スクールFネットの活用を研究している。</p>
事務局	<p>スクールFネットによる照会に対する回答方法を説明する。イントラネット画面を開くと照会画面が現れ、最初に学校番号を入力する。それから、次々と質問に回答していき、最後に確認ボタンを押し印刷する。その印刷した書類を校長が確認後、送信ボタンを押せば終了である。従来のように、回答を様式に入力しその後メール送信するという形式ではなく、回答は選択性で、チェックボックスにチェックを入れた後送信するという形式である。組織として回答するためにも、校長の確認後送信するというワンステップをふむが、非常に簡素化した照会回答の仕組みを作り上げた。本年度教育委員会内部で、このスクールFネットを利用して5～6個程度の照会を予定している。</p>
委員	<p>平成30年度教育センター運営方針の中にあるデジタルコンテンツの存在感が、これから非常に大きくなっていくだろう。E研修を利用することにより、集合型の研修回数が随分スリム化され減少していく。このことは現場の教員にとって負担軽減になるのではないか。今後、E研修をもっと校内研修の中に活用するためには、どのような仕掛けを考えているのか。また、今後6年間の新しい福岡の教育の中で、ICT機器の利活用について見通しを教えて欲しい。</p>
事務局	<p>研修・研究課と協力して、一部の研修をオンラインに移せないかということを検討している。現在我々職員が履修しているeラーニングシステムと、同様のオンライン研修を導入できるよう調査研究している。</p>

発言者	内 容 等
委 員	九州地区でも教職員研修支援機構が立ち上がっていると思うが、そこでは教員や大学教員の専門に特化したデータベースを構築することを聞いている。教育センターや学校で行う研修の講師招聘では、かなり閉鎖された人的ネットワークによる個別依頼が中心だと思うが、このデータベース等が構築されれば活用していただきたい。
委 員	採用前研修いわゆるウォームアップ研修では、教員経験の無い人がインターンシップとして現場で経験を積むという話があったが、昨年度は講師で現場にいる教員に、3月末に研修があった。本年度もこの研修が開催されるのか。また、どのような内容かを伺いたい。次にA B事業についてだが、小学校と中学校の取り組み方の違いを感じている。昨年、自分が所属校でA事業を行った際に、テーマに選んだ教科に関するエキスパートがいないので、みんなで知恵を出し合いながらなんとか当日を迎え、A事業終了後も培ったものを持続できるような取り組みを行った。一方で、まだ見栄えにこだわる学校の話も聞いている。また、本年度A事業で参観した中学校では「普段どおりのことを実施し見せている。」という話を聞いた。それで十分だと思う。
事務局	採用前研修として、インターンシップ研修は講師経験のない人を対象に、ウォームアップ研修は講師経験の有無にかかわらず、どちらも希望者が受講している。4月のスタートに向けて、少しでも心構えができるように、不安を取り除けるようにと、ウォームアップ研修は、夜間に2時間2回開催している。主に、教員の仕事・1日の仕事・1年の仕事といった初歩的な内容から、服務倫理・人権教育・特別支援教育・生徒指導等、4月当初困惑しないような基本的な内容としている。
事務局	日々しっかりとみんなで授業をするということは、これからも大事にしなければならない。中学校は教科がバラバラであったり部活動や生徒指導等の関連で、小学校のような研究システムにはならないが、小学校も中学校も子供達の学力向上や学びの姿を実現するために、学校の実態に応じてやっていくのがA事業の趣旨だと思っている。制約や縛りもあるので、様々な意見に耳を傾けながら改善していきたい。
委 員	昨年、初任者研修に関して様々な提案をしたところ、A B 2回に分ける・回数を減らす・夏期休業中の開催というように配慮がなされ感謝している。特別支援学校の1/4の職員が1～4年次で若手であるので、デジタルコンテンツ研修を一層推進していただきたい。次に、今まで支援学校のセンター的機能と発達教育センターとの連携をやってきたが、今後は小中学校の支援学級或いは通常学級の子供達の支援のために、リーダーコーディネーターなど、何か起用できないかと思っている。
事務局	特別支援教育に関しては、全ての教員が正しく理解し適切に支援することが基本であるので、正しく理解し実践できるような研修を企画していく。その際、お力添えをお願いしたい。
事務局	教育センターの所長を経験し、様々な方々から支えていただいているのをわかってはいたが改めて実感した。本日いただいた意見を基に、よりよい教育センター運営に活かしたい。それがひいては、教員の指導力向上につながり、最終的には福岡市の子供達の力のアップにつながると信じているので、教育センターはこれからもしっかりと頑張っていきたい。本日は短い時間でしたが、たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。